

`Here/There + I/we/you + be/go' の機能

著者	日木 くるみ, 田村 知子
雑誌名	研究論集
巻	89
ページ	21-38
発行年	2009-03
URL	http://doi.org/10.18956/00006182

‘Here/There + I/we/you + be/go’の機能

日 木 くるみ
田 村 知 子

要 旨

本稿の目的は、日木・田村(2007)で提示した【Here/There + you + are/go】表現の機能に関する仮説を修正し、主語がI/weの場合にも適用可能なものにするものである。

【Here/There + X + Be/Go】表現は、(1)文頭の Here または There、(2)主語 X (I/we/you)、(3)動詞 Be または Go、の3要素から構成されており、各要素の組み合わせによって、規則的に各表現の機能が決定される。

各要素に含まれる語の機能は以下のとおりである。

(1) Here は聞き手に対し、「注意を促す」が、There は、「話者の期待が達成したことを表明する」。

(2) 主語 X が you の場合、話題の対象は「聞き手」である。I の場合は「話者」、we を選択した場合は「話者を含むグループ」となる。(ただし、X が人であるとは限らない。)

(3) 動詞 Be の場合は、「主語 X の状態」について、Go の場合は、「X の行為」について、注意喚起あるいは達成表明を行う。

本稿ではこの修正仮説を、【Here/There + I/we + be/go】の実際の用例で検証し、その有効性を主張した。

キーワード：文頭の Here/There、be/go、話者と聞き手

1. はじめに

日木・田村(2007)では、【Here you are】【Here you go】【There you are】【There you go】の4表現がそれぞれ独自の機能を持つと主張した。その機能は、here/there で表わされる「促し (START) / 達成 (GOAL)」の対立と、are/go で表わされる「状態 (STATE) / 行為 (ACTION)」の組み合わせによって規則的に生み出される。

表 1 : 4 表現の機能

		動 詞	
		are you の状態 (STATE)	go you の行為 (ACTION)
副 詞	here 促し (START)	① Here you are You が “ready” な状態になるように、話者が you を促す	② Here you go You が次の行為をするように、話者が you を促す
	there 達成 (GOAL)	③ There you are You が話者の期待する状態に達したことを、話者が表明する	④ There you go You が話者の期待する行為を遂げたことを、話者が表明する

表 1 は、主語が you の場合を対象としたものである。しかし、you 以外にも I/we/he/she/it/they が主語にくることが可能であり、【Here/There + X + Be/Go】表現は、全部で28種類が存在する。我々の研究の最終目標は、【Here/There + X + Be/Go】の機能を包括的に説明する仮説を立てることであるが、本稿では、主語 X に一人称単数の I と一人称複数の we がくる表現を取り上げ、X が you である表現のみを扱った表1の仮説の、さらなる一般化を試みたい。

具体的に扱うのは、次の 8 表現（以下「8 表現」と呼ぶ）である。

- (1) a. Here I am e. Here we are
 b. Here I go f. Here we go
 c. There I am g. There we are
 d. There I go h. There we go

2. 辞書の記述

下の表は、8 表現が Wisdom、OALD、『英語基本形容詞・副詞辞典』でどのように記述されているかをまとめたものである。

表 2 : Wisdom、OALD、『英語基本形容詞・副詞辞典』における 8 表現の記述

8 表現	Wisdom	OALD	英語基本形容詞・副詞辞典
Here I am	「ここに、こちらに」の意味の例として Here I am. ただ今(帰りました); さあ着いた	用例も説明も無	S が代名詞のときは通例 Here S be の語順をとる A: Where are you? どこにいるの? B: Here I am.-Alexander <i>et al.</i> ほらここだよ
Here I go	用例も説明も無	用例も説明も無	用例も説明も無
There I am	用例も説明も無	用例も説明も無	用例も説明も無
There I go	用例も説明も無	用例も説明も無	用例も説明も無
Here we are	《話》(1) さあ着きました。 (2) 《くだけで》(私たちが探していた物が) ここにあった	3. Used when you are giving or showing sth to sb: 略 Here we are (=we've arrived).	Here we are. の成句は「(私たちが求めているものが)ほらここにあります; (目的地などに) さあ着きました」などの意を表す場合によく用いられるとして Here we are! -OALD さあ着いたぞ
Here we go	Here we go. 《話》さあ始まるぞ; さあ始めよう [行くぞ] Here we go again. 《くだけで話》(不快に感じていることなどが) また始まったよ	Here we go. (informal) said when sth is starting to happen: 'Here we go,' thought Fred, 'She's sure to say something.' Here we go again. (informal) said when sth is starting to happen again, especially sth bad	Here we go. も同じように用いられる(註1): "Here we go." -Norton, <i>Convoy</i> 「さあ行くぞ」 /All right, I told myself. Here we go. -Dahl, <i>Foxley</i> よし、と私は自分に言った。思い切ってやってみよう。 また Here we go again. 「(ああ) またか」の成句は特に不快なことについて用いられる [COBUILD]: NETTIE: He's exceptional. JOHN: Here we go again. -Gilroy, <i>Roses</i> ネティー: あの子は例外よ。 ジョン: おいおい、またかい
There we are	(1)= There you are (2). (2) There you are (3). (3) 副5 註) There you are (2). (そういう事情なので) 仕方がない There you are (3). ほらごらんなさい、だから言ったでしょう 副5 【文頭で】(相手の注意をある人・物・事に向けて) あれ、ほら。	用例も説明も無	There you [we] are. は「さあどうぞ」「それごらん」などの意の成句。
There we go	用例も説明も無	用例も説明も無	用例も説明も無

(註1) 『英語基本形容詞・副詞辞典』で「Here we go. も同じように用いられる」というのは「Here goes. と同じように用いられる」の意味である。Here goes. の記述は、「『そら行くぞ [やるぞ]』の成句で用いられ、特に難しい [勇気のいる、不快な] ことを思い切って (ためしに) やってみる場合に使われる」とある。

まず目につくのは、どの辞書でも扱っていない表現が4つ (Here I go, There I am, There I go, There we go) ある点である。これらの辞書を見る限り、この4表現が実際に存在するかどうかは分からない。

辞書に記載されている表現についても、その説明内容に不明瞭な点がみられる。

例えば、Here we go again に対する Wisdom と OALD の記述を比較してみると、前者では「(不快に感じていることなどが) また始まったよ」とあるが、後者では“said when **sth is starting to happen** again, especially sth bad”とある (太字は筆者)。したがってこの表現を、不快に感じていることなどがまた始まったときに使用すべきなのか、それとも、これからまた始まるときに使用すべきなのか、言語学習者は悩んでしまう。『英語基本形容詞・副詞辞典』では、「(ああ) またか」とどっちつかずの訳になっており、その用法は依然として曖昧なままである。

また、There we are に対する Wisdom の記述を見ると、「仕方がない」「ほらごらんさい、だからいったでしょう」「(相手の注意をある人・物・事に向けて) あれ、ほら」という3つの用法が挙げられている。しかし学習者の立場からすれば、「仕方がない」と「ほらごらんさい、だからいったでしょう」は意味がかなり異なり、何故同じ表現でこのように違った日本語訳になるのか、腑に落ちない。日本語訳から Here X Be, Here X Go, There X Be, There X Go の機能を理解するには限界がある、ということを、この記述は示唆しているのかもしれない。

以上、見てきたように、8表現の機能を、それぞれの表現に対する既存の説明から理解するには無理がある。これは、【Here/There + X + Be/Go】表現全般にみられる共通の問題であり、統一された明確な機能の説明がぜひとも必要である。

次の節では、日木・田村 (2007) で扱った X が you の4表現、そして本稿で扱う X が I/we の8表現を合わせた、12表現に対する仮説を提示する。そして4節では、事例にあたり、この仮説を立証していきたい。

3. 仮説

【Here/There + X + Be/Go】表現は、(1) 文頭の Here または There、(2) 主語 X (I/we/you)、(3) 動詞 Be または Go、の3要素から構成されている。そのため、各要素ごとに選択された語の組み合わせによって、規則的に12通りの機能が決定される。

各要素に含まれる語は、それぞれ以下のような特性を持ち、文全体に作用する。

(1) 文頭の Here と There は、どういう行為であるかを表す。Here は聞き手に対して注意を促し、There は話者の期待が達成したことを表明する。(ここでの Here/There は、「ここ・あそこ」という遠近感を示す語ではない。)

(2) 主語 X は、誰について注意を促したり、達成を表明したりするのかを示す。you を選択した場合は「聞き手」について、I を選択した場合は「話者」について、we を選択した場合は「話者を含むグループ」についてである。(ただし、主語 X は人とは限らない。)

(3) 動詞 Be と Go は、主語 X の何について注意を促したり、達成を表明したりするのかを示す。Be を選択した場合は X の状態について、Go を選択した場合は X の行為について、注意喚起あるいは達成表明を行う。

この仮説をまとめたものが、下の表である。

表3：【Here/There + X + Be/Go】の機能

	BE X の状態 (STATE)	GO X の行為 (ACTION)
HERE 注意の促し (START)	HERE X BE. X (you/I/we) の状態に注意を向けるよう、話者が聞き手を促す	HERE X GO. X (you/I/we) の行為に注意を向けるよう、話者が聞き手を促す
THERE 話者の期待達成表明 (GOAL)	THERE X BE. X (you/I/we) が話者の期待する状態に達したことを、話者が聞き手に表明する	THERE X GO X (you/I/we) が話者の期待する行為を遂げたことを、話者が聞き手に表明する

表1から表3へ修正するにあたり、変更を加えたのは以下の3点である。

① 左側の HERE/THERE 欄において、表1では「促し (START) / 達成 (GOAL)」と記載していたが、表3では「注意の促し (START) / 話者の期待達成表明 (GOAL)」と加筆した。

② 上の BE/GO 欄において、表1では主語を you としていたが、表3では主語に you 以外の代名詞も来ることを考慮し、X で記述した。

③ 【Here/There + X + Be/Go】すべての欄において、それぞれの機能説明に「聞き手」の存在を追加した。

①と②を修正した理由は、HERE/THERE と BE/GO の組み合わせから、【Here/There + X + Be/Go】の各表現の機能を、より予測しやすくするためである。

例えば表1では、Here を「促し」、are を「主語 you の状態」とそれぞれ説明していたが、この組み合わせからは Here you are の機能を、「You が “ready” な状態になるように、話者が you を促す」と予測するのは少々難しい。

しかし、この表現を話者が聞き手に対して発話したとき、Here を「注意の促し (START)」、BE を「主語 X の状態」と考えれば、この2要素の組み合わせからその機能を、「X (you) の

状態に注意を向けるように、話者が聞き手 (you) を促す」と予測するのは容易になる。

③の修正点は、主語の範囲を you から I/we へと広げたことによって生じたものである。

主語が you の場合のみを扱っていた表 1 では、主語が聞き手でもあった。そのため、同一存在であることが明確になるよう、「聞き手」という表現は使わず、you と記載した。また、There you are/go では、「話者が表明する」相手は聞き手 (= 主語 you) であることが明白だったため、「聞き手」の存在をあえて記すことは控えた。しかし表 3 では、主語に you 以外の代名詞が来る場合も含まれるため、「聞き手」の存在を明記することにした。

表 3 にしたがって、日木・田村 (2007) で扱った、主語 you をとる 4 表現の機能を捉え直すと、次のようになる。

(2)

Here you are: X (you) の今の状態に注意を向けるように、話者が聞き手 (you) を促す

Here you go: X (you) の次の行為に注意を向けるように、話者が聞き手 (you) を促す

There you are: X (you) が話者の期待する状態に達したことを、話者が聞き手 (you) に表明する

There you go: X (you) が話者の期待する行為を遂げたことを、話者が聞き手 (you) に表明する

では、これによって、日木・田村 (2007) の用例が説明できるか確認してみよう。

Here you are は相手に何かを渡すときに発話されることが多い。例えば、銀行で行員が客に小切手を渡しながらか発話する。これは、you (客) が今の状態 (小切手を受け取る状態) に注意を向けるよう、話者 (行員) が聞き手 (you=客) を促しているのである。

Here you go には、話者が女性達を車に乗せる時に、車のドアを開けて女性達に発話する例がみられた。これは、you (女性達) の次の行為 (車に乗る行為) に注意を向けるよう、話者が聞き手 (女性達) を促す発話行為である。

There you are の用例では、赤ん坊を抱いたことのない女性に、無理やり友人が赤ん坊を抱かせ、There you are と発話していた。これは、you (女性) が話者 (友人) の期待する状態に達した (赤ん坊を抱いた状態になった) ことを、話者 (友人) が聞き手 (you=女性) に表明している。

There you go では、人間になった元天使が、知り合いになった天使に握手の仕方を教える場面がある。2人は手を握り合う。元天使が「もっと強く握れ」と言い、天使はこれに従う。その時に元天使は There you go と発話するのである。これは、you (天使) が話者 (元天使) の期待する行為を遂げた (もっと強く握った) ことを、話者 (元天使) が聞き手 (you=天使)

に表明しているからである。

では表 3 から、今度は主語に I/we をとる 8 表現の機能を予測してみよう。

(3)

Here I am: 自分 (I) の状態に注意を向けるように、話者 (I) が聞き手を促す

Here I go: 自分 (I) の行為に注意を向けるように、話者 (I) が聞き手を促す

There I am: 自分 (I) が話者 (I) の期待する状態に達したことを、話者 (I) が聞き手に表明する

There I go: 自分 (I) が話者 (I) の期待する行為を遂げたことを、話者 (I) が聞き手に表明する

Here we are: 自分達 (we) の状態に注意を向けるように、話者 (I) が聞き手を促す

Here we go: 自分達 (we) の行為に注意を向けるように、話者 (I) が聞き手を促す

There we are: 自分達 (we) が話者の期待する状態に達したことを、話者 (I) が聞き手に表明する

There we go: 自分達 (we) が話者の期待する行為を遂げたことを、話者 (I) が聞き手に表明する

ちなみに、Here we are/go の機能における「話者」とは、we の一員である I であり、聞き手には we が含まれる。したがって「話者が聞き手を促す」というのは、「自分達を促す」とことなのである。There we are/go の場合も同様であり、「話者が聞き手に表明する」とは、「自分達に表明する」という意味である。

次節では、この仮説を、(3) の実際の用例と照らし合わせながら検証していきたい。

4. 用例による検証

本節では、4. 1 で主語 X が I の 4 表現を、4. 2 で主語 X が we の 4 表現をそれぞれ見ていく。用例は、映画、及び British National Corpus (以下、「BNC」) と Collins Wordbanks (以下、「CW」) の二つのコーパスから収集した。各表現の使用状況を的確に捉えるためには、画像と音声を同時に確認できる映画のデータが最適であるが、映画では見つからない例もあったため、コーパスデータも利用した。コーパスデータは、使用状況が明確なものを選び、それぞれの表現の後に again が付いている用例も含めた。用例中の太字は、筆者によるものである。

4. 1 Here I am, Here I go, There I am, There I go の検証

4. 1. 1 Here I am

まず始めに、Here I am の使用例から見てみよう。以下は、映画 Driving Miss Daisy の一場面である。

(4)

BOOLIE: Excuse me, fellas. Excuse me. Oscar?

OSCAR: Yes, sir, **here I am**.

BOOLIE: Are you all right?

OSCAR: No, sir. I'm stuck!

—*Driving Miss Daisy (DVD Ch.2/00:08:08)*

Boolie の経営する工場でエレベーターが故障してしまい、乗っていた従業員の Oscar が出られなくなってしまった。エレベーターは一階と二階の間で宙吊りになっており、そのドアは柵状のため、皆のいる一階からは Oscar の両足だけが見えている。

Boolie は従業員たちの間をかきわけ、エレベーターの前に出ると、Oscar に向かって声をかける。それに対する Oscar の返事が太字部分である。つまり話者は、「ここにいますよ」と、自分の状態に注意を向けるよう、聞き手の Boolie を促しているのである。

次の例は、映画 Total Recall からである。

(5)

QUAID: Who are you?

STEVENS: We were buddies in the Agency back on Mars.

You asked me, if you disappeared, to come and find you.

So **here I am**. Good-bye.

QUAID: What was I doing on Mars?

—*Total Recall (DVD Ch.12/00:35:01)*

Quaid と Stevens はテレビ電話で話している。記憶のない Quaid に対し、Stevens は、自分が Quaid と接触した事情を説明する。それから太字部分のセリフを発し、「だからここに僕がいるのさ」と自分の状態に対する注意喚起を、聞き手 Quaid に促しているのである。

集めたデータに関する限り、Here I am の使用場面は、おおむね上の二つのパターンに分類

されるようである。すなわち、(4) のように自分の居場所（自分がある場所に存在する状態）や状況（自分の今の状態）を知らせる場合と、(5) のように自分がその場に居る理由を述べた上で、自分の状態について発話する場合の二通りである。いずれも、**Here I am** が「話者 (I) が自分の存在や状態に注意を向けるよう、聞き手を促している」表現であるため、使用可能と考えられる。

4. 1. 2 Here I go

(6) は BNC からとった用例である。Lydia と Betty の会話に注目されたい。

(6)

On the whole, she decided, being a rat was more chic, but nevertheless she determined to write a long earnest article soon on some subject of profound importance in which she would make a significant contribution to the sum of human awareness. Betty's fond tolerance was not enough. Lydia wanted her respect. How greedy. "Anyway," she said, "I am off to the pub. **Here I go.**" "They'll think you're an alcoholic," warned Betty. "You know how people talk in these small communities "

"I am an alcoholic," said Lydia.

—BNC (GOX)

Lydia は今まさにパブに行こうとしている。彼女は **Here I go** と発話することで、I (Lydia) の次の行為（パブに向かうこと）に注意を向けるように、聞き手 Betty を促している。

(7) も BNC からとった用例で、Mr. Frere の発話部分に **Here I go** が使われている。

(7)

It was perhaps more than the chill air that flushed the parson's cheeks as he bent to fasten his skates.

"After the narrow dikes of Cambridgeshire," he said standing again, "the span of this lake offers an exhilarating prospect. Will you accompany me, Miss Agnew?"

"I should rather keep company with Mrs Frere. We shall stand breathless in admiration together."

"Then **here I go.**" Frere stepped on to the ice, sniffed at the cold air, and then, hands clasped at his back, the tail of his frock-coat lifting a little in the breeze, he sailed off.

—BNC (H82)

Mr. Frere は Miss Agnew を誘ったが、Miss Agnew はスケートを見ているという。そこで、Mr. Frere が1人でスケートをしようとしている時の発話である。自分 (I) の次の行為 (スケートをする事) に注意を向けるように、聞き手 Miss Agnew 達を促している。

4. 1. 3 There I am

(8) は CW からとった用例である。

(8)

He laid the device into Ospina's hands with the reverential gesture a 47th Street diamond merchant might reserve for a prize stone. It was, Ramon noted, not much bigger than a remote control for your TV.

“The beauty of this thing is that it's got a twelve -digit display panel,” the salesman purred. “What's the significance of that, you ask? I'll tell you. You and I can work out a code between us which nobody knows. I got a beeper, you got a beeper. We want to have a private conversation, maybe pay phone to pay phone, right? You beep me, punch in a code that tells me where to call, when to call. You go to your corner pay phone, dial the number I gave you which is another pay phone and, bingo, **there I am**. We can have our little chat and nobody's listening, know what I mean?”

— CW (*usbooks0050*)

Salesman が Ospina に、他人に聞かれない話をする状況を想定して、ポケベルの便利さを説明している。ふたりだけが知る番号を決めておけば、Ospina はポケベルを使って、いつでもどこに電話をするか salesman に伝えることができる。そうすれば、Ospina が電話をかけてきたとき、salesman は指定された公衆電話で電話を受け取った状態になる、ということを、salesman は There I am の発話によって伝えている。ここでも、I (salesman) が話者 (salesman 自身) の期待する状態に達したこと (指定された別の公衆電話で、電話を受け取った状態になったこと) を、話者が聞き手に表明している。

(9) は BNC からの用例である。

(9)

He said, naturally there would be some changes amongst plant and animal life, but species would adapt to suit the changes in climate and atmosphere and so on. The film was black at first then it turned a sort of brownish colour, getting lighter but still weird colours, brownish yellow, till we could see it was water, a river or something, and its bank. And there were some birds swimming -floating down towards the camera, they were brown. They were ducks - ordinary mallard ducks. But they didn't have any heads."

After a silence Caro said, "Is that it?"

"Yes, I woke up."

"Headless ducks."

"Yup, maybe I was half awake. But it's a fairly strange thing to invent."

"Yes."

"So, there we are. **There I am.**"

"What d'you think will happen?"

—BNC (HJH)

ここでは、ひとりが首のないアヒルの夢を見たことについて、もうひとりに語っている。「半分は覚醒していたかもしれない。不思議だ」と話者が言い、相手が「そうだね」と答えた後で、“So, there we are. **There I am.**”と発話している。これは「人というのは、そのような不思議な夢を見た状態になるものなのさ。私は不思議な夢を見た状態になったんだ」というような日本語訳になるであろう。There I am を発話することで、I（夢を見た人）が話者（夢を見た人自身）の期待する状態に達したこと（不思議な夢を見た状態になったこと）を、聞き手に表明している。

4. 1. 4 There I go

以下の3例はいずれも BNC からのものであり、すべて同じ本からの引用である。ある日 Dr. Penry Vaughan の所有する島に打ち上げられた女性がいる。彼女は頭部に傷を負い、意識がなかった。Dr. Penry は医師であり、彼女に治療を施し、自分の家で面倒を見ることになる。Leonora と呼ばれることになった女性は、記憶喪失になっており、自分自身が誰かわからない状態である。以下の3例は、そんな彼女と Dr. Penry Vaughan が何気ない会話をしているところである。

(10)

“What is cawl?”

“A main dish soup made with lamb and root vegetables and leeks. Dumplings, too, when my mother’s doing the cooking.” One eyebrow shoot up. “You looked surprised. Is that because I can cook, or because I possess a mother, like other men?”

She smiled. “Neither. You’re so efficient it seems strange you haven’t mastered the art of the dumpling. Even I know how to make those - ” She stared at him, arrested.

“**There I go again.** My stupid mind knows I can make dumplings, so why on earth can’t it tell me who I am?”

—BNC (JYC)

(11)

“Were you a boy scout?”

“No — too busy playing rugby. Were you a girl guide?” he countered swiftly.

“Oh, no, not my scene at all ...” She halted, then blew out her cheeks. “**There I go again.** Perhaps I’ll do it by process of elimination; find out what I’m not bit by bit until I know who I am.”

—BNC (JYC)

(12)

“You like Ravel?” he asked without opening his eyes.

Leonora applied herself to her knitting hastily. “Not the piano music, nor the hackneyed old Bolero, but Ravel in this mood I find irresistible.”

“Know the piece?” he asked idly.

“Daphnis and Chloe...” She turned to find him watching her. “Ah! **There I go again.**”

He smiled. “So you do.”

—BNC (JYC)

いずれの例でも、Leonora は相手との何気ない会話の中で過去を無意識に思い出している。(10) では dumpling の作り方を知っていることを、(11) では girl guide になったことを、(12) ではラベルの曲を知っていることを無意識に語った直後に、There I go が使われている。日本語に訳すならば、「また、口から出てきちゃったわ」ぐらいの日本語訳になるであろう。このように、There I go は、I が話者 (I 自身) の期待する行為を遂げたこと (この場合は無意識でありながら、記憶を取り戻したこと) を、聞き手に表している。

4. 2 Here we are, Here we go, There we are, There we go の検証

4. 2. 1 Here we are

次に、主語を *we* に変えた四つの表現 *Here we are*, *Here we go*, *There we are*, *There we go* の事例を順にみていこう。まずは、*Here we are* である。

(13)

CAMILLE: We're family now and there's a lot of adjustments we're all going to have to make. Right, Reggie?

REGINALD: Right, Camille. Well, **here we are**, Stuie, the family home.

CAMILLE: The family home.

REGINALD: Mind you, this is just our summer place. Winter time, we live in a crawl space above a delicatessen.

—*Stuart Little (DVD Ch.18/00:49:50)*

これは、映画 *Stuart Little* の一場面である。孤児の *Stuart* は養父母 *Mr. & Mrs. Stuart* のもとで暮らしていたが、そこへ *Camille* と *Reginald* が現れ、*Stuart* は自分達の実子だと主張する。そして *Stuart* を引き取り、自分達が住む城へ連れて帰るのだが、車が城に近づいた瞬間、*Reginald* が同表現を発話する。和訳すれば「着いたぞ」となるであろう。つまり、*We* の状態（養父母と *Stuart* が、養父母の家にいるという状態）に注意を向けるように、話者（養父）が聞き手（自分たち=養父母と *Stuart*）を促している、と考えられる。

二例目は、映画 *Daylight* からである。

(14)

ROGER: Excuse me, could you please help me with the dog? Thanks very much.

ELEANOR: Here boy, come here.

STEVEN: Okay, so **here we are**, we're high and dry. So what do you plan on doing?

KIT: In a situation like this, I think it's very very important that everybody knows exactly what is happening. Okay?

—*Daylight (DVD Ch.23/00:57:57)*

この場面は、爆発事故によって火災が起り、河底に沈みつつあるトンネルから、生存者たちが脱出しようとしている場面である。かつて緊急医療班の責任者を務めていた *Kit* は、事故

の現場から人々やその飼い犬を救出すべく、彼らを率いて出口を探索する。しかし生存者のひとり Steven は、Kit がその昔、人命救助に失敗して免職になった過去があると知り、反動的な態度を示す。上昇する水面から逃れるため、Kit は皆に車の上に載れと指示し、Steven も周囲から諭され渋々それに従う。だが車の上に立った途端、彼は Kit に向かって挑むように、上のセリフを言い放つのである。ここでも話者 (Steven) が、we (自分たち) の状態 (車の上に載っている状態) に注意を向けるよう、聞き手 (自分たち) を促しているのである。

映画で使用される【Here we are】表現は、前者のような「到着」場面での使用が、とりわけ多く観察される。これは、「自分たちに注意を向ける」必要がある現実場面というのが、主にこのような、自分たちが特定の場所に「到着」する場面であることを、示唆しているのかもしれない。

4. 2. 2 Here we go

では、be 動詞の代わりに go を組み合わせた Here we go は、どのような場合に発話されるのだろうか。まずは、下の例を見てみたい。

(15)

JACK: Just relax.

DANIEL: Are you sure?

JACK: Just remember, pain is beauty. Okay, **here we go**. Take a deep breath. Instant eyelift.

DANIEL: Wow.

—Mrs. Doubtfire (DVD Ch.10/00:33:08)

これは、映画 Mrs. Doubtfire の場面である。主人公 Daniel は妻に離縁され、親権争いにも負けてしまった。子供たちと再び接触するため、妻の家で家政婦として働くことを思いついた Daniel は、兄弟 Jack に協力を頼み込む。Jack の職業は特殊メーキャップアーティストで、男性を女装させることもお手のものだった。

上の場面では、Daniel が鏡の前に座り、頭にネットを被っている。額には紐が何本か取り付けられ、背後に立った Jack がその紐の端を握っている。Jack は“Okay, here we go.”と発話した瞬間、紐をぐいと引く。すると Daniel の顔がきゅっと引っ張られ、皺がみるみるうちに伸びていく。ここでも、we (Jack と Daniel) の次の行為 (紐を引いて顔の皺を伸ばすこと) に注意を向けるよう、話者 (Jack) が聞き手 (自分たち=Jack と Daniel) を促していると考えられる。

次の例は、映画 Spy Game からの引用である。

(16)

OPERATIVE: Tom Bishop on the phone.

MUIR: Yeah?

BISHOP: The Sheik wants him there within the hour.

MUIR: So, **here we go**.

BISHOP: Nathan, the doc's not with me.

MUIR: Where the hell is he?

BISHOP: The Amal retaliated against the Palestinians.

—*Spy Game* (DVD Ch.16/01:26:15)

Muir と Bishop は秘密工作員である。Bishop は、The Shiek を殺すために、医師を先方へ送り込む任務を担っている。彼は車の中から Muir に電話をかけ、The Shiek は一時間以内に医師に会うことになっていると告げる。それを聞いた Muir が、「作戦開始だな」の意で同表現を発話するのである。つまり、we (Muir と Bishop) の次の行為 (医師を送り込み、作戦を開始すること) に注意を向けるよう、話者 (Muir) が聞き手 (自分たち) を促しているのである。

4. 2. 3 There we are

次の例は、映画 The World According to Garp (『ガープの世界』) からとったものである。

(17)

GARP: I wanted to fly.

MISS. FIELDS: I understand. I understand. It's all right. Now carefully, give me your foot.

DEAN: Get the mattresses close together right next to the building so he can fall on them. Hurry, boys.

MISS. FIELDS: Give me your free foot. A little bit more over. **There we are!** I've got you! I'm not going to let go of you! All right? I'm not going to let go.

—*The World According to Garp* (DVD Ch.7/00:18:44)

Miss Fields は未婚で、学校の寮母をしながら一人息子、Garp を育てている。Garp は夜中に起きだし寮の屋根にのぼるが、足をすべらせて屋根から落ちそうになる。彼の上半身はかろうじて屋根の上であり、彼は必死に屋根にしがみついている。この状況に気付いた学生や

Dean はマットレスを敷いて万が一に備えようとする。母親は Garp を見つけ、屋根に一番近い外付けの階段から助けようとして「片足をよこしなさい」と言い、Garp の片足をつかんだところで *There we are* と発話する。つまり、We (Garp と発話者である自分) が期待通りの状態に達した時 (自分が Garp の足をつかんだ状態に達した時) に、この表現を用いているのである。ここでの *we* は、Miss Fields と Garp を指している。

最後は、*There I am* の例 (9) としてすでに前述したものである。主語が *we* の場合、*we* は前例のように特定の人たちを表すこともあれば、漠然と一般の人々を表すこともある (斎藤・安井 1983, p.150-151)。この例では、後者であると考えられる。

(19)

前略—They were ducks –ordinary mallard ducks. But they didn’t have any heads.”

After a silence Caro said, “Is that it?”

“Yes, I woke up.”

“Headless ducks.”

“Yup, maybe I was half awake. But it’s a fairly strange thing to invent.”

“Yes.”

“So, **there we are**. There I am.”

“What d’you think will happen?”

—BNC (HJH)

話者は不思議な夢を見たと言った後、“So, there we are.” と発話している。この発話の意味は、「人というのは、そのような不思議な夢を見た状態になるものなのさ」であろう。*we* (話者である自分も含めた人) が話者の期待する状態に達したこと (不思議な夢を見た状態に達したこと) を、聞き手に表しているといえよう。

4. 2. 4 There we go

最後に、*There we go* の使用例をみてみよう。下の例は、4. 2. 2 節で紹介した映画 *Mrs. Doubtfire* の、別場面である。

(20)

WAITER: Forgive me. Excuse me.

MRS. DOUBTFIRE (=DANIEL): I’m all right. **There we go**. Thank you.

Oh, let’s see here.

WAITER: May I take your order, ma’am?

—*Mrs. Doubtfire* (DVD Ch.19/01:37:57)

Daniel は家政婦 Mrs. Doubtfire に扮して、妻とその友人、そして子供たちといっしょにレストランへやってきた。だが彼は、同時刻に同じ場所で、勤務先のテレビ局の社長とも食事の約束を取り付けていた。家族と社長の双方に気づかれぬよう、Daniel/Mrs. Doubtfire は化粧室で扮装を変えつつ、二つのテーブルの間を行き来する。しかし、社長のテーブルで何杯も酒を飲んでしまった彼は、女装して家族のテーブルに戻った途端、ウェイターがひいてくれた椅子から転がり落ちる。ウェイターは謝りながら客を起こし、隣に座っていた Stu も手伝う。Mrs. Doubtfire はきちんと椅子に座り直すと、一同に向かって “I’m all right. There we go.” と宣言するのである。つまり、we (Mrs. Doubtfire や、彼女を起き上がらせようと手伝っている人たち) の期待する行為を遂げたこと (Mrs. Doubtfire が椅子に座ったこと) を聞き手に表明しているのである。

次は、4. 2. 1 節に引用した映画 Stuart Little の、続編の一場面である。

(21)

MRS. LITTLE: Okay. **There we go**. Can you say, “Walk with Mommy”?

“Mommy”? “Walk”?

—*Stuart Little 2 (DVD Ch.8/00:23:04)*

ここでは Mrs. Little が、散歩に行くため、自分の赤ん坊に帽子を被せている。下線部はその際に、赤ん坊に向かって発せられたセリフである。訳せば、「お帽子かぶったわね」とでもなるだろうか。

ここでも、we (Mrs. Little と赤ん坊) が話者 (Mrs. Little) の期待する行為を遂げたこと (散歩の準備を整えたこと) を、話者が聞き手 (Mrs. Little と赤ん坊) に表明している。

5. まとめ

本稿では、【Here/There + X + Be/Go】が、(1) 文頭の Here と There、(2) 主語 X (I/we/you)、(3) 動詞 Be と Go、の3要素から構成され、各要素ごとに選択された語の組み合わせによって、規則的に12種類の機能が決定されることを論じた。我々はこれを、実際の用例によって検証し、今まで個別に扱われていた各表現の用法を、その違いや多様性も含めて、一括して合理的に説明できることを明らかにした。

今後の課題としては、主語 X に3人称の he/she/they/it をとる16表現を研究対象に加え、仮説のさらなる一般化・精密化を図る必要がある。

また、データ収集の際に気づいたことであるが、映画・BNC・CollinsWordbanks のデータ

に関する限り、各表現の用例数には極端な差がみられた。例えば、*There I am* などはずべてのデータを合わせても、たった2例のみであった。なぜ特定の表現に限って、このような使用頻度の低さがみられるのだろうか。

その他にも、【*Here/There + X + Be/Go*】表現の動詞が現在形であるのはなぜか、といった問題がある。文を構成する3要素に加え、会話参加者の役割なども考慮に入れて、さらに研究を進めていきたい。

参考文献

British National Corpus [BNC]

Collins Wordbanks [CW]

Oxford Advanced Learner's Dictionary 7th edition. Oxford University Press, 2005. [OALD]

井上永幸・赤野一郎（編）『ウィズダム英和辞典』三省堂，2003.

小西友七編『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社出版，1989.

日木くるみ・田村知子（2007）「*Here/There* と *Are/Go* が織りなす世界 —— *Here you are/Here you go/There you are/There you go* の機能」『関西外国語大学研究論集 第86号』pp.57-76.

資料

Daylight. (1996) Universal Studios.

Driving Miss Daisy. (1989) Warner Bros.

Mrs. Doubtfire. (1996) Twentieth Century Fox Film Corporation.

Spy Game. (2001) Beacon Communications LLC.

Stuart Little 2. (2002) Columbia Pictures Industries, Inc.

Stuart Little. (1999) Columbia Pictures Industries, Inc.

The World According to Garp (1982) Warner Bros.

Total Recall. (1990) Carolco International N.V.

(ひき・くるみ 国際言語学部教授)

(たむら・ともこ 愛知教育大学非常勤講師)